

エントランスに新顔登場

まいぼつりん

ナウマンゾウと埋没林

今年の春から、科学文化センターの1階ロビーにナウマンゾウの復元模型と入善の吉原海岸沖から引きあげられた埋没林（海底林）樹根をいっしょに展示することになりました。両方とも氷河時代と関係の深いものです。

ナウマンゾウは中国大陸北部から日本列島にかけて、新生代の第四紀とよばれている時代に生きていました。そして、今から約30万年前から1万6千年前まで、沖縄をのぞく日本各地にすみついていたことがわかっています。私たちの先祖は時にはナウマンゾウを狩って食糧としていました。

県下では、^{かみにいかわ}上新川郡大沢野町長川原で歯の化石が発見されていて、いっしょに見つかった木材化石の年代測定から、この歯の化石は約3万1千年よりも古いものとされています。東砺波郡平村祖山からもトクナガゾウとよばれているゾウの歯の化石が見つっていますが、これもナウマンゾウのなかまのものであると考えられています。

埋没林（海底林）は昭和55年（1980年）に入善の吉原海岸の沖合い500m、深さ20mから40mまでの海底から100本以上も見つかりました。それ

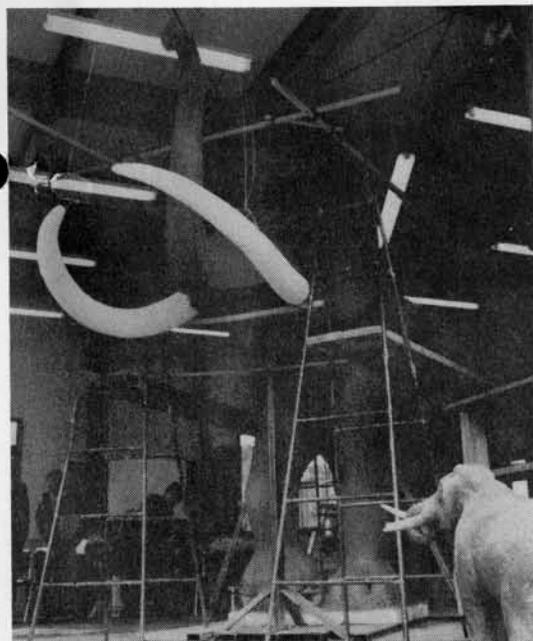


写真1：ナウマンゾウ復元模型（製作中）



写真2：入善吉原海岸沖から引きあげられた埋没林（海底林）樹根

らのうちのいくつかは、海底に根を下ろした状態で見つかり、木の種類は大部分がヤナギやハンノキでした。これらの木の年代測定から、約1万年前に陸上に生えていた木であることがわかりました。これは現在のところ世界で最も古いものです。

今から約1万年前は、ウルム氷期とよばれる氷河時代も終わりに近づき、今より低かった海面がしだいに上昇していた頃です。

これらの埋没林（海底林）は、黒部川から運ばれた大量の土砂によって、埋められて、その後、海面が上ってきて、現在のように海底に見られるようになったものと考えられています。

富山県には、このような川の堆積作用によってできた埋没林が、陸上や海底に、規模の大小を問わず、たくさんあります。富山県は日本の中でも埋没林がたくさん産出するところです。そして、吉原海岸沖の埋没林（海底林）は、海面変動を裏づける世界的にも貴重なものなのです。

（後藤 道治 古生物担当）

表紙によせて

ホクリクムヨウラン 北陸地方のスダジイ林やウラジロガシ林に、まれに生えています。葉緑素を持たないランの仲間、寄生生活をしています。6月頃、うす暗い林の中でひっそりと咲くさまは、たいへん奥ゆかしいものです。

（文・写真 太田道人）